富山県出土の重要考古資料 16

とやまの弥生時代墳墓・祭祀遺跡出土品

中小泉遺跡
囲山遺跡
南太閤山Ⅰ遺跡
惣領浦之前遺跡
江尻遺跡
蔵野町東遺跡

2024年3月
富山県埋蔵文化財センター

富山県

はじめに

当センターは、平成19年度から、本県の代表的な遺跡の出土品を紹介する冊子として、「富山県出土の重要考古資料」を15冊刊行してまいりました。今年度は第16冊として、当センター収蔵出土品の中でも弥生時代の歴史や文化を語る上で重要な墳墓・祭祀遺跡の出土品を紹介いたします。

本書により、多くの皆様に本県の貴重な文化財に触れていただき、関心を深めていただければ幸いです。

令和６年３月

富山県埋蔵文化財センター

例　言

1　本書は、「令和５年度文化庁地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」の国庫補助金を受けて実施した、当センターの『富山県出土の重要考古資料』作成事業で作成したものである。

2　本書は、下記の各発掘調査報告書を元に作成した。

『北陸自動車道遺跡調査報告－上市町遺構編－神田遺跡　正印新遺跡　下経田遺跡　中小泉遺跡　飯坂遺跡　江上A遺跡　江上B遺跡　東江上遺跡』1981　上市町教育委員会

『北陸自動車道遺跡調査報告－上市町土器・石器編－神田遺跡　正印新遺跡　下経田遺跡　中小泉遺跡　飯坂遺跡　江上A遺跡　江上B遺跡　東江上遺跡』1982　上市町教育委員会

『北陸自動車道遺跡調査報告－上市町木製品・総括編－神田遺跡　正印新遺跡　下経田遺跡　中小泉遺跡　飯坂遺跡　江上A遺跡　江上B遺跡　東江上遺跡』1984　上市町教育委員会

『囲山遺跡　小杉町囲山遺跡緊急発掘調査報告書』1970　富山県教育委員会

『富山県埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』1972　富山県教育委員会

『都市計画街路　七美・太閤山・高岡線内遺跡群　発掘調査概要　高山遺跡　東山Ⅰ遺跡　東山Ⅱ遺跡　表野遺跡　南太閤山Ⅰ遺跡　南太閤山Ⅱ遺跡』1983　富山県教育委員会

『都市計画街路　七美・太閤山・高岡線内遺跡群　発掘調査概要（2）　南太閤山Ⅰ遺跡　南太閤山Ⅱ遺跡』1984　富山県教育委員会

『惣領浦之前遺跡・惣領野際遺跡発掘調査報告』2010　公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

『下老子笹川遺跡・江尻遺跡発掘調査報告』2014　公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

『下黒田遺跡・下佐野遺跡・諏訪遺跡・蔵野町東遺跡・蔵野町遺跡・駒形南遺跡発掘調査報告』2013　公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

3　本書作成にあたり、発掘調査報告書に掲載された出土品のうち、良好な残存状態でかつ重要度の高い出土品155点を選択し、遺跡ごとに新たに通し番号を付した。

4　出土品の図の縮尺は、1/6を基本として各図版に掲載した。

5　本書に掲載した地図は、国土地理院の電子地形図（タイル）に遺跡位置を追記して掲載した。

6　本書に掲載した出土品は、富山県埋蔵文化財センターで保管・収蔵している。

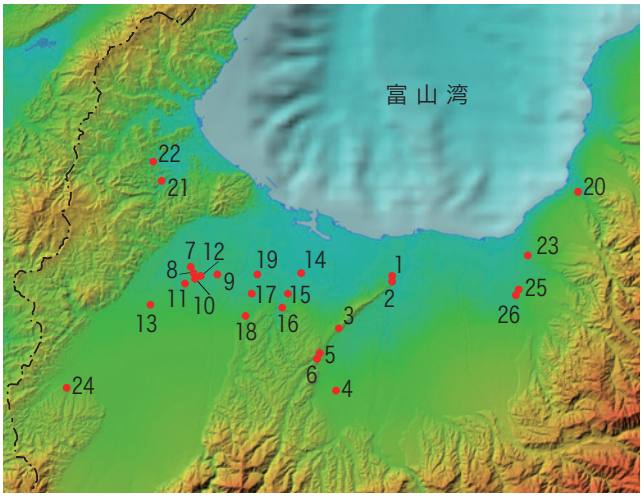
目　次

1　富山県の弥生時代墳墓・祭祀遺跡出土品の概要…… 1
2　中小泉遺跡出土品…… 3
3　囲山遺跡出土品…… 4
4　南太閤山Ⅰ遺跡出土品 …… 5
5　惣領浦之前遺跡出土品…… 7
6　江尻遺跡出土品 ……12
7　蔵野町東遺跡出土品……15

表紙　中小泉遺跡出土仿製鏡　　裏表紙　蔵野町東遺跡出土鳥形木製品

1　富山県の弥生時代の墳墓・祭祀遺跡出土品の概要

弥生時代とは大陸から水稲耕作をはじめ金属器や新たな技術が伝来し、農耕文化が定着した時代である。その始まりには地域差があり、富山県では紀元前４世紀頃と考えられる。紀元３世紀頃まで続く弥生時代は土器様式によって前期・中期・後期に区分される。当時の社会はおもに農耕生産を共同で行う集落が祭祀等によって結び付きを強めたと考えられ、狩猟採集を基本としていた縄文時代から徐々に変化したとみられる。



第１図　富山県の主な弥生時代墳墓・祭祀遺跡位置図

富山県における弥生文化の遺跡は中期以降確認され、後期へと継続する遺跡が多い。それぞれの地域には拠点的集落が存在し、中期以降は盛んに玉作りが行われている。また、後期になると丘陵上に墓や環濠の巡る防御的な集落などが出現し、地域のリーダー的存在が出現したと推測される。

弥生時代の墳墓については日本各地で多様な形態がみられるが、県内で主流となるのは方形周溝墓であり、後期から終末期には地域首長墓として日本海側に分布する四隅突出型墳丘墓が特徴的である。方形周溝墓は群集で築かれることが多く、遺構の残りの良い台地上では数世代にわたる墓域がみつかった例もある。一方、弥生時代の祭祀については希少価値の高い威信材の埋納や、饗宴・供食に使用した土器の一括廃棄等が祭祀行為の可能性が高いものと考えられており、県内でも川跡や窪地などの水場付近にその痕跡を残す遺跡がみつかっている。

現在、県内で確認されている弥生時代の遺跡は約400遺跡を数えるが、このうち発掘調査によって墳墓、祭祀関連の遺構・遺物が確認された祭祀遺跡のうち主な26遺跡を第１表にまとめた。本書では弥生時代の墳墓・祭祀遺跡出土品から本県における当時の埋葬や祭祀の様相を明らかにすることを目的とし、当センターの所蔵品から歴史上、学術上価値の高く残存状態が良好で重要度の高い６遺跡の出土品を選定した。

第１表　富山県の主な弥生時代墳墓・祭祀遺跡出土品一覧 (1)

No.	所在地	遺跡名	遺跡種別	主な遺構	主な出土品	遺跡の特徴	時期
1	富山市	百塚住吉遺跡	墳墓	竪穴建物、方形周溝墓	弥生土器、鉄器	弥生終末期の竪穴建物と方形周溝墓。	後期終末～古墳前期
2		百塚遺跡	墳墓	方形周溝墓、円形周溝墓		弥生終末期の多様な墳墓30基。主体部からガラス玉110点や赤色顔料が出土。	後期終末～古墳前期
3		杉谷4号墳	墳墓	墳墓	弥生土器	弥生終末期の四隅突出墳丘墓。	弥生～古墳
4		翠尾Ⅰ・南部Ⅰ遺跡	集落（祭祀）	竪穴建物、掘立柱建物、土坑、溝、柱穴、土器溜まり	弥生土器、石錘、土錘	弥生後～弥生終の土器溜まりを3カ所検出。内2カ所で特に祭式土器が集中する地点があり祭祀の場を想定。また溝への祭式土器の廃棄もあり川溝祭祀も想定。	弥生後、弥生終
5		向野塚	墳墓	墳墓	弥生土器	四隅突出墳丘墓。	後期終末
6		六治古塚	墳墓	墳墓	弥生土器	前方後方形墳丘墓。	後期終末
7	高岡市	石塚遺跡	墳墓	平地式建物、方形周溝墓	弥生土器、石鏃、磨製石斧、石鎌、磨製石剣、大型石包丁、扁平片刃石斧、緑色凝灰岩石核	弥生中期の大規模集落。古墳前期にも遺構増加。	中期、後期終末
8		石名瀬Ａ遺跡	墳墓	竪穴建物、掘立柱建物、方形周溝墓、玉製作遺構	弥生土器、玉製作遺物、管玉、勾玉、臼玉、ガラス玉、石鋸、石針、磨製石斧、打製石斧、石鏃、石包丁、石剣	弥生中～終末の玉製作遺構および方形周溝墓。	中期～後期終末
9		下黒田遺跡	墳墓	方形周溝墓、溝、土坑	弥生土器	弥生中期の方形周溝墓としては県内最大級。	中期
10		諏訪遺跡	墳墓	方形周溝墓、土坑、溝、自然流路	弥生土器、木製品、石製品		中期中葉～後期後半

第１表　富山県の主な弥生時代墳墓・祭祀遺跡出土品一覧 ⑵

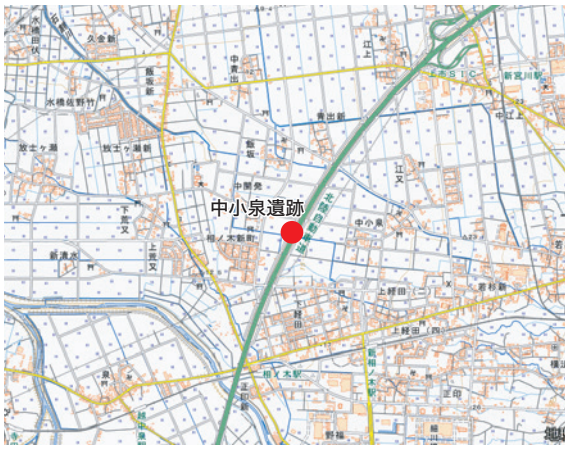
No.	所在地	遺跡名	遺跡種別	主な遺構	主な出土品	遺跡の特徴	時期
11	高岡市	蔵野町東遺跡	集落（祭祀）	溝、土坑	弥生土器、木製品、石製品	弥生後期後半～古墳初の溝からは装飾器台等の大量の土器が出土。	後期後半～
12	高岡市	下佐野遺跡	集落、墳墓	竪穴建物、方形周溝墓、土坑墓、円形周溝墓、方墳、前方後方墳、土坑、溝	弥生土器、勾玉、管玉、石鏃、砥石、碧玉剥片、木製品、炭化米	弥生時代後期の方形周溝墓から古墳時代前期の前方後方墳への移行の状況を示す県内でも数少ない遺跡。太鼓を転用した井戸側が出土。弥生終末～古墳前は装飾器台等が出土。玉類と炭化米出土の古墳時代焼失建物検出。	弥生後、弥生終
13	高岡市	江尻遺跡	集落（祭祀）	自然流路、溝、土坑	弥生土器、鍬、棒、杭	弥生時代終末の土坑から炭化稲を多量に検出。自然流路から終末期の土器、短甲、紡織具等の木製品が多数出土。	弥生中、弥生後、弥生終
14	射水市	愛宕遺跡	集落（祭祀）	掘立柱建物、井戸、土坑、溝	弥生土器、仿製鏡、勾玉、石鏃、玉未成品、木製高杯、木製容器、井戸枠、桶、皮袋型土製品、土錘	弥生～古墳時代は集落内で玉作り。井戸枠に大型桶を転用。小型仿製鏡・木製高杯・線刻土器・皮袋形土製品が出土。	後期
15	射水市	囲山遺跡	墳墓	方形周溝墓、土坑墓	弥生土器、勾玉、管玉、鉄剣	県内で最初に発見された方形周溝墓。	弥生中、弥生後
16	射水市	南太閤山Ⅰ遺跡	墳墓	方形周溝墓、土坑墓、土坑、溝	弥生土器、勾玉、小玉、管玉、ガラス玉	後期終末～古墳時代の方形周溝墓と土坑墓で構成された墳墓群を検出。	弥生中、弥生後、弥生終
17	射水市	布目沢北遺跡	墳墓	方形周溝墓、竪穴建物、土坑、溝	弥生土器、石鏃、石包丁、磨製石斧、打製石斧、磨製石鏃、打製石鏃、叩石、砥石、管玉、勾玉、玉未成品、玉原石、木製槽、棒状木製品、円板状木製品、台状木製品、ガラス製管玉、ガラス製小玉	県内最大規模の方形周溝墓群(18基)を検出。玉類の未成品・原石・剥片などが多く出土、玉製作を行っていたと考えられる。溝から櫛描文土器と共に天王山系土器が共伴、天王山系土器の時期については中期に所属と推測。	弥生前、弥生中、弥生後、弥生終
18	射水市	串田新遺跡	墳墓	竪穴建物、方形周溝墓、墳丘墓	弥生土器	国指定史跡。	弥生終
19	射水市	二口油免遺跡	墳墓	方形周溝墓、竪穴建物、土坑、溝	弥生土器、碧玉製管玉、ヒスイ原石、軽石	古墳周溝に隣接して同時期の建物を検出。	弥生中、弥生後、弥生終
20	魚津市	佐伯遺跡	墳墓	竪穴建物、方形周溝墓、土坑	弥生土器	天王山式土器がまとまって出土。焼失建物１棟。	弥生中、弥生後、弥生終
21	氷見市	惣領浦之前遺跡	集落（祭祀）	溝	弥生土器、土錘、編台目盛板、刳物桶、槽、楕円板、剣形、刀形、盾、甲、団扇形、板材、棒、紡錘車	後期の溝から朱塗りの盾や武器形木製品など祭祀に関わる遺物が出土。	弥生後、弥生終
22	氷見市	上久津呂中屋遺跡	墳墓？、集落	周溝式竪穴建物、竪穴建物、周溝式平地建物、周溝遺構、掘立柱建物、井戸、方形周溝墓状遺構、自然流路、落ち込み、土坑、柱穴	弥生土器、土製品、木製品、石製品、金属製品、炭化米	中期以降、丘陵上に方形周溝墓状遺構が作られ、絹織物が付着した鉄刀と磨製石剣が出土。後期後半には低地に集落が営まれ、弥生土器のほか、玉作関連遺物が多数出土。	中期～後期後半
23	滑川市	上梅沢遺跡	墳墓	円形周溝墓	弥生土器	終末期の墓域。	後期終末～古墳初頭
24	小矢部市	平桜川東遺跡	墳墓	竪穴建物、方形周溝墓	弥生土器、刀子	焼失建物２棟。	弥生終
25	上市町	飯坂遺跡	墳墓	方形周溝墓、溝	弥生土器	弥生時代後期の盛土をもつ方形周溝墓群を検出。方形周溝墓の下層から天王山式土器の単純層を確認。	弥生中、弥生後
26	上市町	中小泉遺跡	生産（水利施設）	溝、シガラミ、土坑	小型仿製鏡、弥生土器、大型蛤刃式石斧、鍬、鋤、編板、棒状木製品	後期の溝から県内初のシガラミを検出。後期の溝肩部から小型仿製鏡が単独で出土し農耕祭祀と考えられる。県下初の弥生時代前期の遠賀川式土器が出土。	前期、中期、後期

2　中小泉遺跡出土品（富山県中新川郡上市町中小泉）

－弥生時代中期～後期：小型仿製鏡1点－

（1）出土品の概要

出土品は大溝肩部より単独で出土した小型仿製鏡１点である。遺跡は立山連峰に源を発する上市川左岸の沖積平野の微高地上に位置し、標高約15mを測る。発掘調査は昭和54（1979）年、北陸自動車道建設に伴い行われ、弥生時代と中世の遺構が確認された。弥生時代は中～後期の大溝を中心に中小多数の溝が複雑に切り合いながら併流しており、溝内に造られた複数の堰（シガラミ）は近隣の耕地への水利施設として機能していたと推測される。鏡が出土した大溝SD39は中期に属すが、鏡は中期～後期に溝内の堰から約２m西の肩部で埋められたと考えられる。



第２図　中小泉遺跡位置図

（2）出土品解説

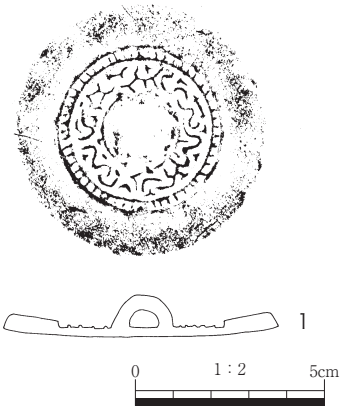
①小型仿製鏡（1）　保存状況は良好で、青銅製の鏡面は凸レンズ状を呈し、背面縁辺に幅広の平縁がめぐる。平縁内側は直行化した櫛歯文帯、S字状が変化した図文、蕨手状の図文等が配され赤色顔料が付着する。

水源管理の場において埋納したと推測される鏡は農耕に関わる水辺の祭祀を考える上で重要な資料である。

写真１　中小泉遺跡全景

写真２　中小泉遺跡出土品

第４図　中小泉遺跡弥生時代遺構図（S＝1：1,000）



第３図　中小泉遺跡出土品実測図（1/2）

第2表　中小泉遺跡出土品一覧

No.	種類	出土地点	法量（cm・g）			備考	報告番号
		遺構	長さ	厚さ	重さ		
1	仿製鏡	SD39	（面径）7.1 （紐径）1.7	（縁端）0.45 （紐高）0.85	110.1	平縁の内側に赤色顔料付着	11

3　囲山（かこいやま）遺跡出土品（富山県射水（いみず）市太閤山（たいこうやま））

－弥生時代後期：鉄剣1点、管玉2点、ヒスイ勾玉1点－

（1）出土品の概要

出土品は土壙墓２基の副葬品一括である。遺跡は射水丘陵北西端に位置し、近接する平野部との比高差は約20mを測る。昭和44（1969）年、太閤山団地環状線建設の工事中に発見され、開発事業に伴う本県初の緊急発掘調査が行われた。遺跡発見時、すでに全調査区の約半分は工事により表土が失われていたが、遺跡は路線変更が図られ県指定史跡となった。弥生時代は後期の方形周溝墓４基および埋葬施設と考えられる土壙３基が検出され、発掘調査当時は方形周溝墓の日本海側北限を示す遺跡として注目された。第２号土壙墓からヒスイ製勾玉１点、第３号土壙墓から小型鉄剣１点と管玉２点である。

第５図　囲山遺跡位置図

写真３　囲山遺跡全景

（2）出土品解説

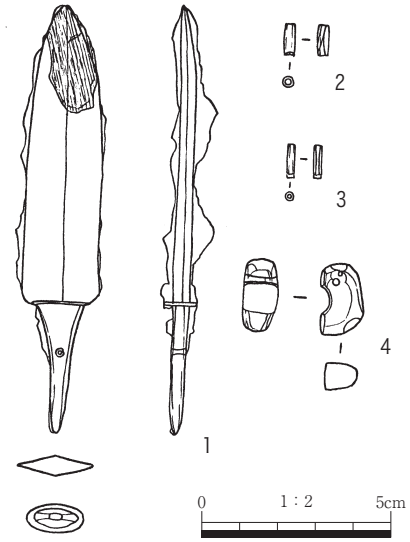
①鉄剣（1）　現在県内最古級の鉄製である柳葉形を呈する小型品で、茎に径２cmの目釘穴がある。身部断面は菱形で稜を持ち、先端には木棺の一部とみられる木質が付着する。保存状態は良好で当初の形状をよく留める。

②管玉（2・3）　碧玉（緑色凝灰岩）製で細身のタイプ。表面に稜が残り、研磨途上の可能性が高い。２は孔が斜め方向に穿たれて欠損、３の端部にも欠損がある。

③ヒスイ勾玉（4）　勾玉は良質のヒスイを用いた優品で、半月形に抉りを入れ両側から穿孔される。貫通孔の上方には未貫通の孔が残る。

小型鉄剣や勾玉は、これを所有する小首長等の存在を示す貴重な例であり、本県の当時の社会を理解する上で重要な資料といえる。

写真４　囲山遺跡出土品



第６図　囲山遺跡出土品実測図（1/2）

第３表　囲山遺跡出土品一覧

No.	種類	材質	出土地点	法量（cm）			備考	報告番号
			遺構	長さ	幅	厚さ・孔径		
1	剣	鉄	第3号土壙墓	11.3	2	0.5	柳葉形、茎に目釘穴（径0.2cm）、柄に木質材が残存	5
2	管玉	緑色凝灰岩？	第3号土壙墓	0.8	0.3	0.2		7
3	管玉	緑色凝灰岩？	第3号土壙墓	(0.8)	0.2	0.1	端部欠損	8
4	勾玉	ヒスイ	第2号土壙墓	1.9	1.1	0.9	両面から穿孔（径0.18cm）、未貫通の穿孔あり	6

4　南太閤山Ⅰ遺跡出土品（富山県射水市南太閤山）

－弥生時代後～終末期：管玉4点、ヒスイ勾玉1点、ヒスイ小玉1点、ガラス玉4点、弥生土器11点（甕1点、壺4点、高杯4点、器台2点）－

（1）出土品の概要

出土品は方形周溝墓２基・土壙墓1基出土の供献土器・副葬品一括及び土器棺である。墓壙出土の玉類10点（管玉、ヒスイ勾玉、ヒスイ小玉、ガラス玉）、方形周溝墓出土土器10点、小児用の棺として使用されたと考えられる土器１点で構成される。遺跡は射水丘陵西端にあり、現在の北陸自動車道小杉インターチェンジ北方約500mに位置する。発掘調査は都市計画道路七美・太閤山・高岡線建設に伴い、昭和57（1983）、58（1984）年に行われ、方形周溝墓８基、土壙墓５基を確認した。墓群は出土品や埋葬部の位置関係等から、３期（1～Ⅲ期）３群（A～C群）に分類でき、眺望の良い尾根上に数世代にわたって築かれた墓群と推測される。墓の規模は大型ではないものの、丘陵上に立地することから有力家族墓と考えられる。

６号墓は7×7mの後期後半の方形周溝墓で、出土品は北溝から、当時の位置を保ちほぼ完形で一括出土した土器群。

３号墓は7×4.5mの終末期の方形周溝墓で、出土品は周溝出土の土器群と主体部出土のガラス玉である。

４号墓は土壙墓で、出土品は主体部出土の玉類である。

１号土器棺墓は小児の墓で、出土品は土器棺１点である。

第７図　南太閤山Ⅰ遺跡位置図

写真５　南太閤山Ⅰ遺跡全景

（2）出土品解説

〈６号墓〉（1～6）

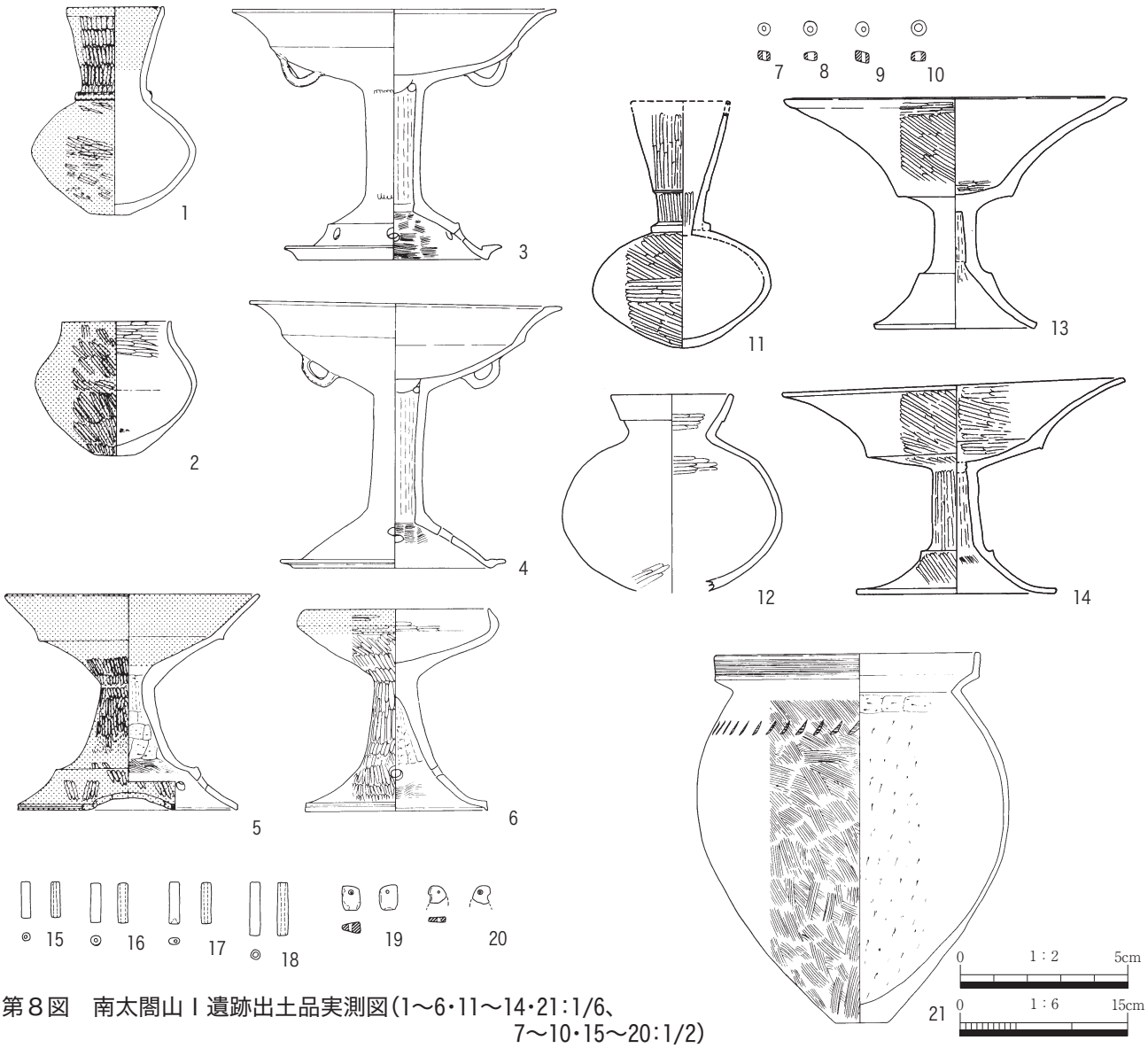
①弥生土器（1～6）　壺２点、器台２点、高杯２点で構成される。保存状況はいずれも良好である。1・2・5・6は外面に赤彩、５は脚裾の一部が焼成前からめくれたような形状を持つ。

〈３号墓〉（7～14）

①ガラス玉（7～10）　明青色を呈し、外径約0.4～0.5cm、孔径約0.1～0.3cm。

写真６　６号墓北溝出土品

写真７　６号墓北溝出土状況



第８図　南太閤山Ⅰ遺跡出土品実測図(1～6･11～14･21:1/6、7～10･15～20:1/2)

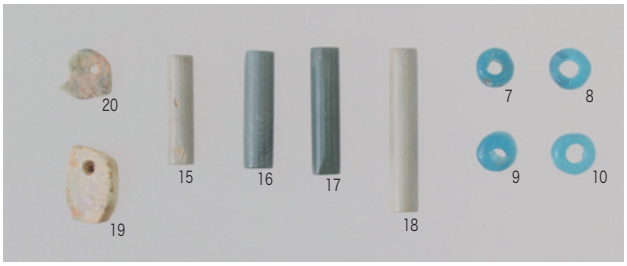


写真８　３号墓・４号墓出土品（玉類）

写真９　３号墓出土品

②弥生土器（11～14）　壺２点、高杯２点で構成される。保存状況はいずれも良好である。

〈４号墓〉（15～20）

①管玉（15～18）　碧玉（緑色凝灰岩）製の細身のタイプで、長さは1.1～1.6cm。17は断面が楕円形を呈し、一端に欠けがある。

②ヒスイ勾玉（20）　勾玉の頭部のみで下半部は欠損している。

③ヒスイ小玉（19）　方形を呈し先端には片面からの穿孔がある。

〈１号土器棺〉（21）

大型の甕で煮炊きに使われていたとみられる。器厚は0.4cm程度と薄く削られ非常に軽量。出土時、口縁部は大きな石２点で蓋をするように覆われていた。小児用の棺として使用されたと考えられる。

これら、出土品は後期から終末期の有力家族の葬送儀礼を示すものであり、弥生時代後期から終末期の社会を理解するうえで貴重な資料である。

写真10　１号土器棺

第4表　南太閤山Ⅰ遺跡出土品一覧

No.	種類	器種・材質	出土地点	法量(cm)			備考	報告番号
			遺構	口径・長さ	器高・厚さ	底径・孔径		
1	弥生土器	壺	6号墓	8.5	18.5	3.4		1984-28
2	弥生土器	壺(無頸)	6号墓	9.8	12.0	3.5		1984-29
3	弥生土器	高杯	6号墓	29.0	22.4	17.0		1984-34
4	弥生土器	高杯	6号墓	28.0	23.5	17.8		1984-33
5	弥生土器	器台	6号墓	22.6	19.2	19.6		1984-38
6	弥生土器	器台	6号墓	16.6	18.0	16.2		1984-39
7	ガラス玉		3号方形周溝墓	0.35	0.3	0.1		1983-22
8	ガラス玉		3号方形周溝墓	0.4	0.28	0.18		1983-24
9	ガラス玉		3号方形周溝墓	0.4	0.3	0.1		1983-25
10	ガラス玉		3号方形周溝墓	0.45	0.3	0.25		1983-26
11	弥生土器	壺	3号方形周溝墓	(8.8)	(22.0)	1.2		1983-1
12	弥生土器	壺	3号方形周溝墓	10.8	(17.6)	—		1983-2
13	弥生土器	高杯	3号方形周溝墓	30.8	20.5	14.2		1983-11
14	弥生土器	高杯	3号方形周溝墓	30.7	18.6	18.0		1983-13
15	管玉	碧玉	4号土壙墓	1.1	0.28	0.1		1983-30
16	管玉	碧玉	4号土壙墓	1.2	0.3	0.15		1983-31
17	管玉	碧玉	4号土壙墓	1.25	0.3	0.1		1983-32
18	管玉	碧玉	4号土壙墓	1.6	0.3	0.1		1983-33
19	小玉	ヒスイ	4号土壙墓	0.7	幅0.5・厚0.3	孔径 0.15		1983-27
20	勾玉	ヒスイ	4号土壙墓	(0.5)	(幅0.45・厚0.2)	孔径 0.15	下半部欠損	1983-28
21	弥生土器	甕	1号土器棺	23.6	33.0	4.7	８号墓に伴う	1984-22

5　惣領浦之前遺跡出土品(富山県氷見市惣領)

－弥生時代後～終末期：弥生土器15点(甕3点、壺5点、高杯1点、器台1点、鉢2点、蓋1点、ミニチュア土器2点)、木製品11点(盾3点、肩甲1点、剣形1点、刀形2点、団扇形2点、団扇形柄2点)－

(1) 出土品の概要

出土品は後期～終末期に属する溝から出土した弥生土器、木製品からなる祭祀具の一括資料である。遺跡は富山県西部の氷見市で、仏生寺川とその支流によって開析された十三谷と呼ばれる谷底平野の奥に位置し、標高は7.5～8.5ｍを測る。仏生寺川下流域は縄文時代前期には海であり、縄文時代中期以降の海退により十三谷に広がっていた湾が閉ざされ、布勢水海と呼ばれた潟湖が形成されたが、遺跡付近はこの頃に平野になったと考えられている。遺跡は谷出口に立地し、周辺の集落にとっては水源口にあたる。

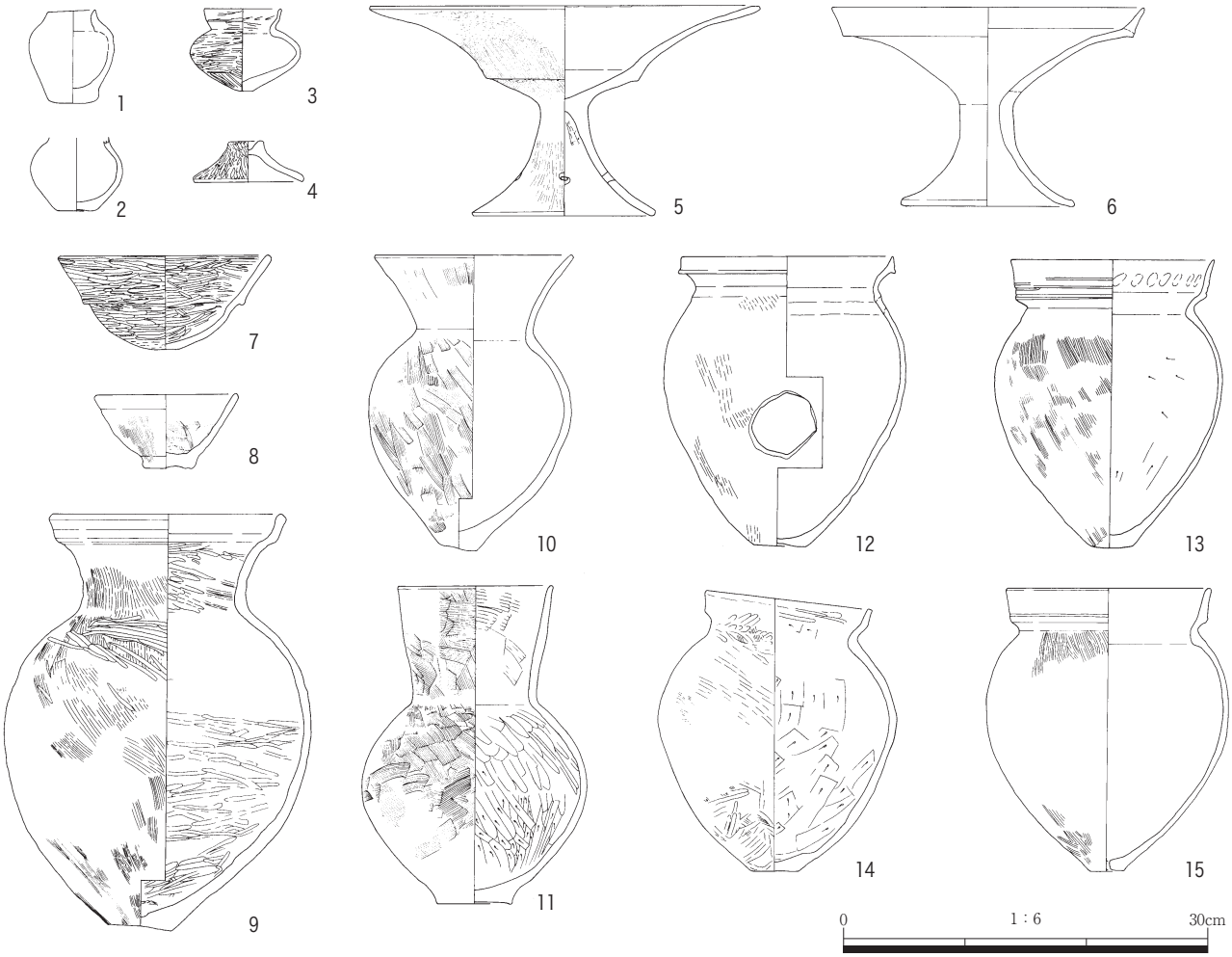
発掘調査は能越自動車道建設に伴い平成15(2003)年に行われた。出土品は弥生土器15点、木製祭祀具11点で構成される。

(2) 出土品解説

①弥生土器（1～15）　甕、壺、高杯、器台、鉢、蓋、ミニチュア土器がある。祭祀用と考えられる土器は完形に近い状態が多く、丁寧な磨きや赤彩が施される。5は口縁部が大きく外反し、脚部には透かし孔を4箇所あける。12は焼成後、胴部に丸窓状に孔が開けられ、祭祀を意図したものとみられる。15は底部中央に穿孔されるが甑として使用した可能性がある。

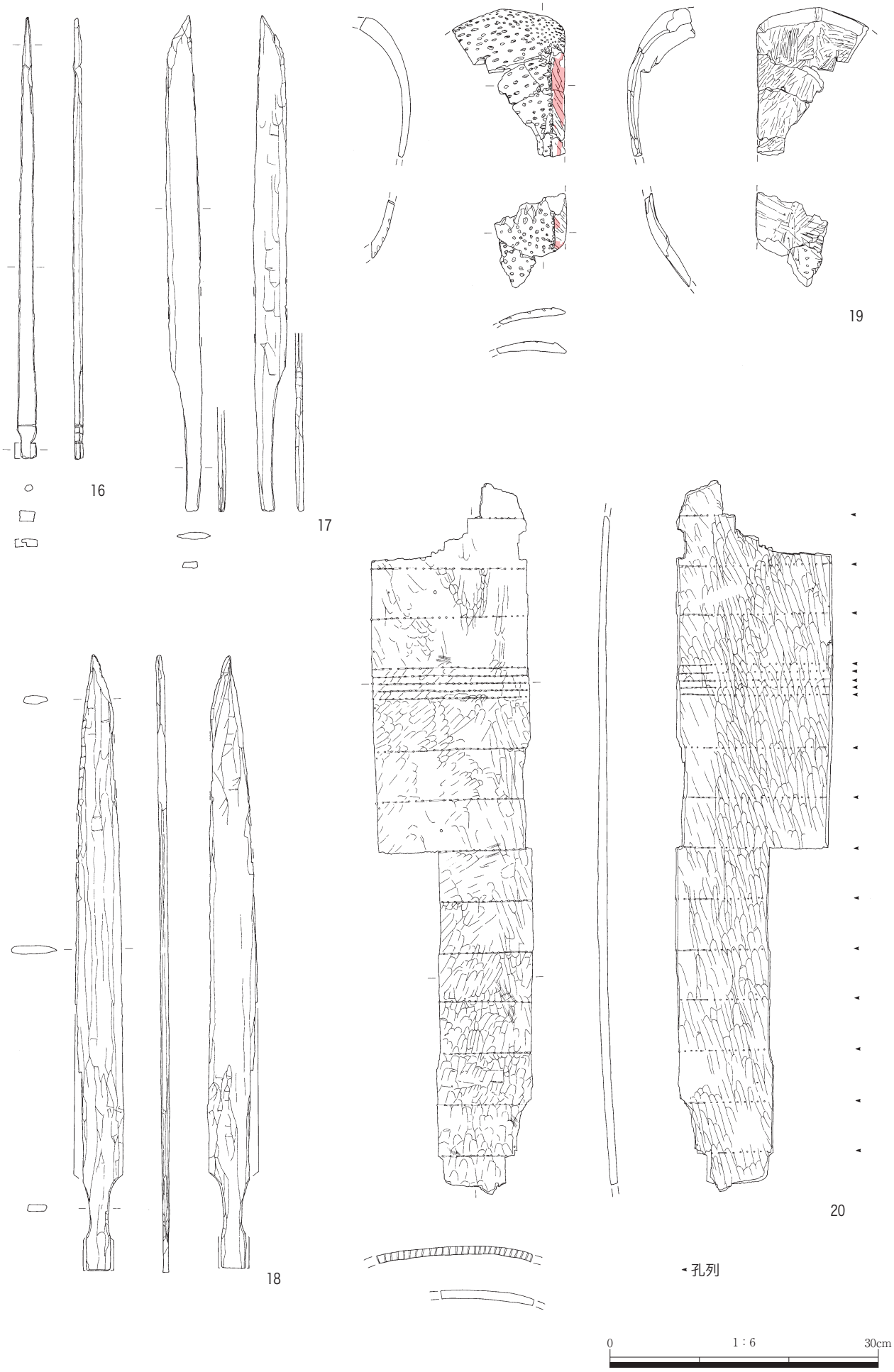
第９図　惣領浦之前遺跡位置図

写真11　惣領浦之前遺跡全景



第10図　惣領浦之前遺跡出土品実測図１（1/6）

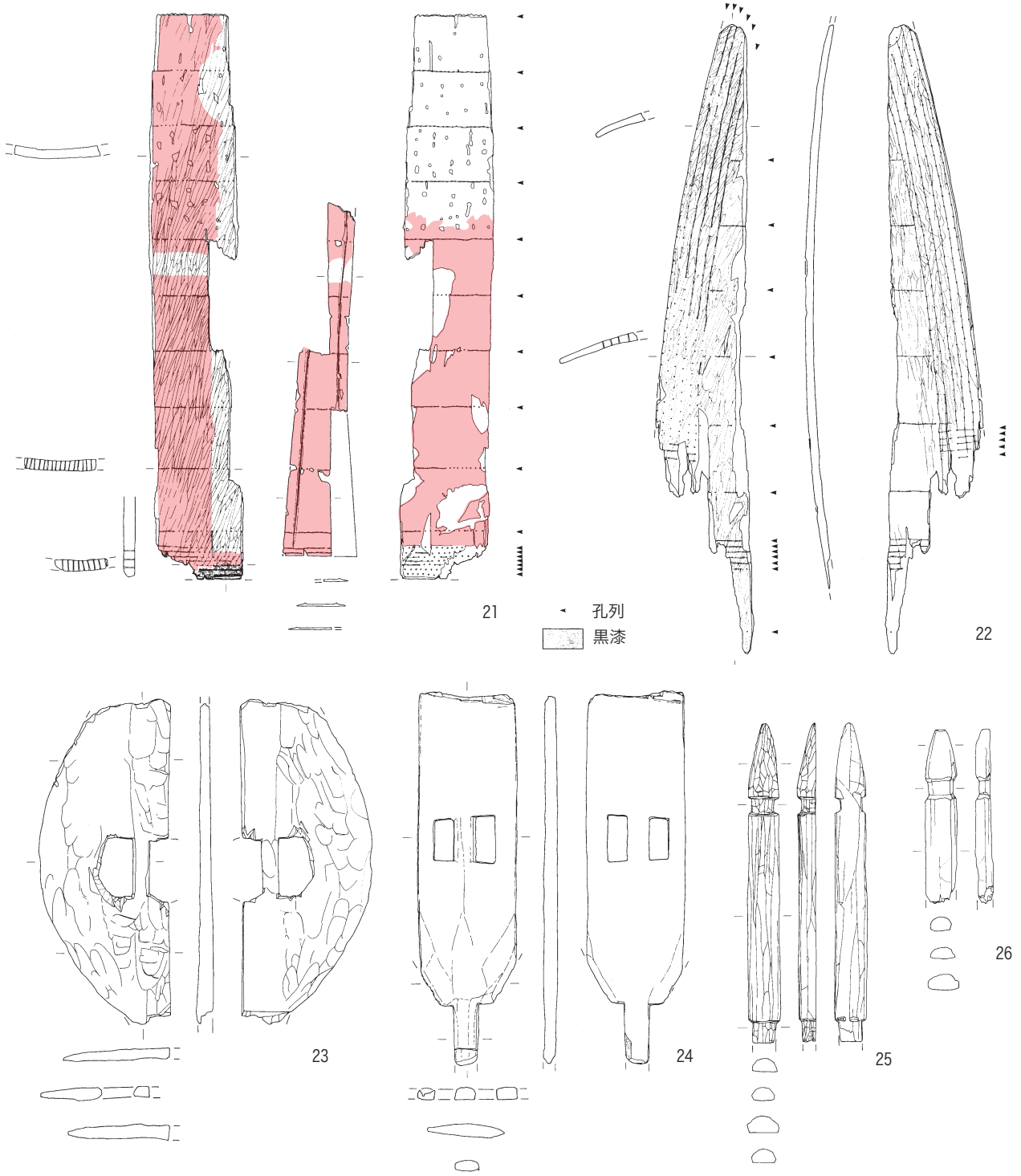
写真12　惣領浦之前遺跡出土品



第11図　惣領浦之前遺跡出土品実測図２(1/6)

②木製品（16～26）　武器形、肩甲（かたよろい）、盾、団扇（うちわ）形がある。16は刃先に加工痕が残り、刃と茎（なかご）の境には筋状の溝が入る剣形。17は表裏両面から刃を薄く削り出した刀形で、茎は刃側を内湾気味に細めて作り出す。18は剣形からの転用か、左右対称の形状を残す茎に片側のみ削り出した刃部をもつ。19は朱が付着した肩甲の断片で、片側に縁を残す。器厚は一定でなく、内面には細い工具による多方向からの加工痕が残る。外面には全面に多数の孔が開けられているが、穿孔方向は一定でなく、長辺縁に作り出された無文帯に沿って連なった穿孔がみられる。孔は器壁の薄い部分では一部貫通しており、鳥の羽などを挿して装飾した可能性がある。樹種はモクレン属を使用。

盾は薄い作りで、表裏全面に主軸と直交する小孔列があるのが特徴である。この小孔列は糸などで綴じ合わ



第12図　惣領浦之前遺跡出土品実測図３(1/6)

せることにより、矢が命中した際に盾が木目に沿って割れ避けるのを防ぐための工夫とされる。樹種はすべてモミ属である。22は側縁が緩やかな弧を描く形状、21は平らな下縁部が残ることから長方形と推定、20は側縁が残っておらず形状は不明である。21は表裏に朱漆を塗布、表面は緩やかに湾曲する。裏面には幅約３㎜の細密な工具痕がみられる。小孔列は主軸直交方向に17列確認でき、そのうち７列は下縁に密接して４㎜間隔、10列はその上に5.5～６㎜間隔で並ぶ。孔間には紐状の綴じ痕が明瞭に残るが、紐痕の部分には朱漆が付着していないことから、綴じ付け後に朱漆が塗布されたことが判る。また表面には別材の装飾板を綴じ合わせていたと考えられる。装飾板は表面に断面三角形の突帯が作り出された長方形の薄板で、盾本体の朱漆のない部分の形跡から上部は円形で下方に向かって直線的に延びた全体形が推測される。また盾本体の上半部には小孔があり、肩甲でも示唆した鳥の羽を挿す装飾の可能性がある。22は上側縁部の断片で、横位13列、縦位６列の小孔列があり、孔間には紐状の綴じ痕が残る。また縦位小孔列の下部では、さらに５列の横位小孔列を重ねて施しており、綴じが縦横に交差した部分があったとみられる。20は小孔列が主軸直交方向に17列確認でき、5.7㎝間隔を基本として中央上寄りの５列のみ約８㎜間隔で密になる。孔間に残る紐痕は明瞭で、上部と中央の２箇所には直径３㎜の木釘が残り、別材の把手が取り付けられていたと考えられている。

団扇形は中央に柄を装着したと考えられる２箇所の孔をもち、一括出土した柄との組み合わせが想定できる県内唯一の例である。23は上端、24は上端および両側縁に切断痕があり転用された可能性がある。団扇形の竿または柄とみられる25、26は一面が平坦に加工されており、先端部の下に削り出された浅い溝を本体の2箇所の孔の中央部分に添え当て、緊縛したと推測されている。

県内の出土例をみると、当遺跡の肩甲および柄装着が想定できる団扇形は唯一であり、さらに盾は最多で朱や漆類の残存も良い。装飾の凝った甲や盾は祭祀を司った支配者層の存在を示唆するものである。また多様な土器及び木製品の祭祀具一括出土は、農耕に伴う水辺の祭祀を彷彿とさせる状況であり、弥生時代の祭祀について理解を深める貴重な資料といえる。

第５表　惣領浦之前遺跡出土品一覧

No.	種類	器種	出土地点	法量（㎝）			備考	報告番号
			遺構	口径	器高	底径		
1	弥生土器	壺形ミニチュア	SD2	3.8	7.5	3.8		219
2	弥生土器	壺形ミニチュア	SD1	－	－	3.2		741
3	弥生土器	壺	SD2	6.2	6.7	1.3	内外面赤彩	141
4	弥生土器	蓋	SD2	8.8	3.3	（鈕）2.8		189
5	弥生土器	高杯	SD2	32.2	17.3	14.9		156
6	弥生土器	器台	SD2	25.4	16.4	14.2		209
7	弥生土器	鉢	SD2	17.0	7.6	2.9		176
8	弥生土器	鉢	SD2	11.5	6.0	3.9	内外面スス	185
9	弥生土器	壺	SD2	18.7	34.1	5.3		125
10	弥生土器	壺	SD2	16.2	24.3	3.0	外面スス	116
11	弥生土器	壺	SD2	12.6	26.2	6.0		105
12	弥生土器	甕	SD2	17.4	23.8	4.3	胴部焼成後穿孔	72
13	弥生土器	甕	SD2	16.7	23.7	3.1	内外面スス	64
14	弥生土器	壺	SD2	13.4	23.0	3.6		119
15	弥生土器	甕	SD2	16.5	23.3	2.7	内外面スス	201
16	木製品	剣形	SD2	50.0	(2.2)	1.1	スギ	291
17	木製品	刀形	SD2	56.5	3.8	0.7	スギまたはヒノキ科	300
18	木製品	刀形	SD2	70.0	5.1	0.9	スギ	302
19	木製品	肩甲	SD2	(12.6)	(16.6)	1.8	モクレン属	317
20	木製品	盾	SD2	(79.7)	(17.7)	1.0	モミ属	305
21	木製品	盾 装飾板	SD2	(56.2) (35.1)	(9.3) (7.0)	1.0 0.2	モミ属	303
22	木製品	盾	SD2	(62.0)	(9.8)	0.8	モミ属	304
23	木製品	団扇形	SD2	(32.1)	(13.1)	1.6	スギ	319
24	木製品	団扇形	SD2	(37.0)	(9.8)	1.4	スギ	318
25	木製品	団扇形柄	SD2	(31.5)	3.1	1.8	スギまたはヒノキ科	321
26	木製品	団扇形柄	SD2	(17.0)	3.5	2.0	スギ	322

6　江尻遺跡出土品（富山県高岡市福岡町江尻）

－弥生時代終末期：弥生土器15点（甕6点、壺1点、高杯2点、鉢1点、台付鉢2点、蓋2点、ミニチュア土器1点）、木製品5点（鏃形1点、刀形3点、短甲1点）－

（1）出土品の概要

出土品は自然流路とその周辺から出土した土器と木製品からなる祭祀具一括資料である。

遺跡は富山県西部の庄川支流の荒又川と岸渡川に挟まれた標高18～19mの扇状地扇端部に立地する。調査は北陸新幹線建設に伴い平成21（2009）年に行われた。出土品は土器15点、木製品５点で構成される。

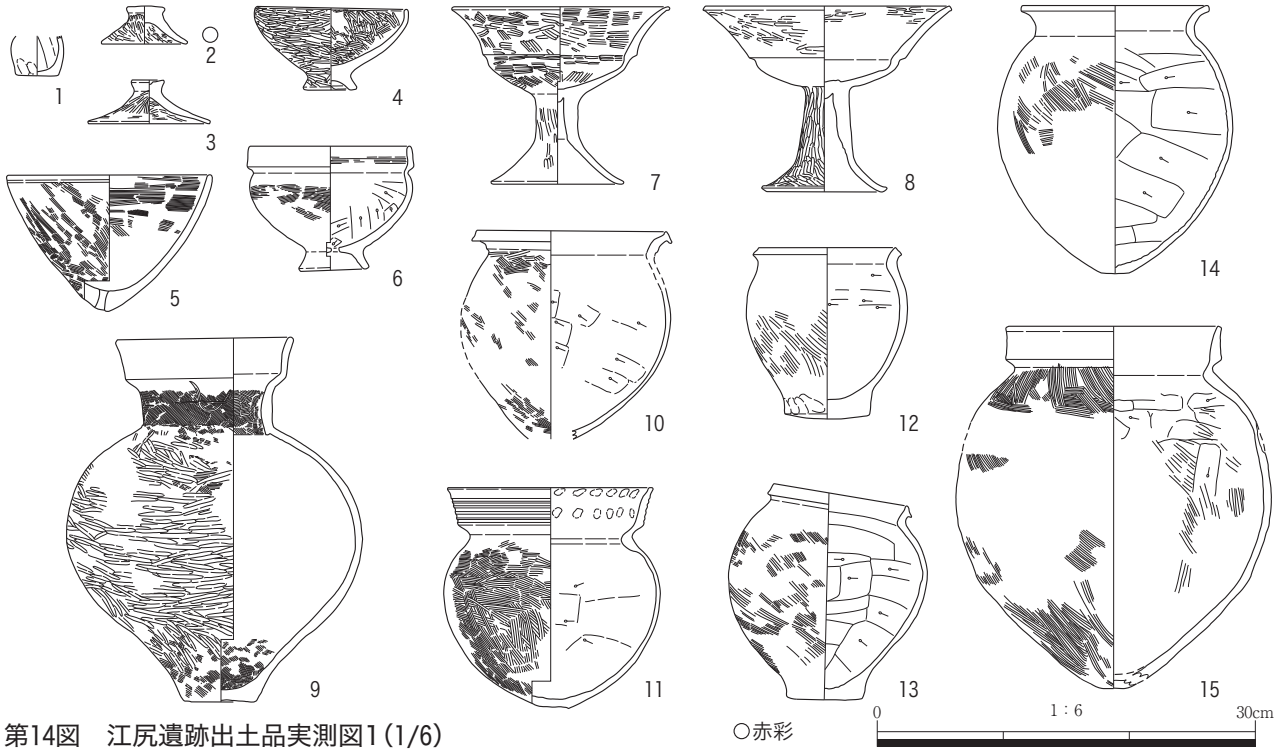
（2）出土品解説

①弥生土器（1～15）　甕、壺、高杯、鉢、蓋、ミニチュア土器があり、終末期から古墳時代初頭に属する。２は内外面に赤彩。５、６は底部に穿孔あり。７、８は鉢形の杯部を持つ高杯。

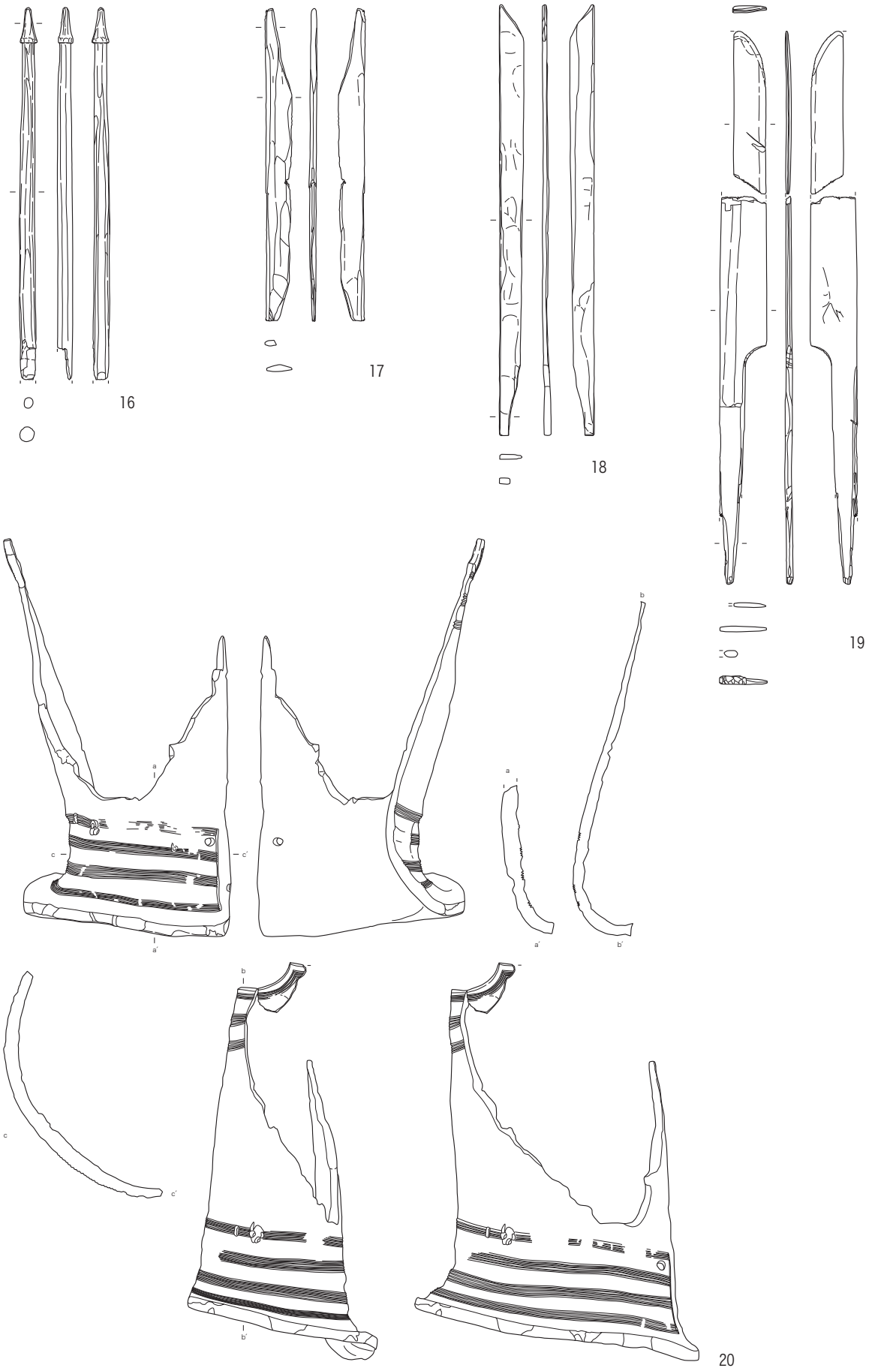
②木製品（16～20）　16は出土例が少ない鏃形で、先端部は二等辺三角形に削り出し、表面は滑らかに仕上げる。17～19は刀形で、一方の端部を斜めに切断し、他方はやや長めに尖らせ柄状としたもの（17・18）、一方の側面を薄く尖らせ刃部との境が明瞭な長い柄をもつもの（19）がある。20は一木を刳り抜いて作られた短甲の半身。袖刳り部分は失われているが、右前胴部にあたり、裾部は屈曲し外側へ広がる。樹種はカエデで、外面には全体に黒漆が塗布

第13図　江尻遺跡位置図

写真13　江尻遺跡全景



第14図　江尻遺跡出土品実測図1（1/6）



第15図　江尻遺跡出土品実測図２(1/6)

される。裾部に４条、胴上部に３条の突帯を巡らせ、それぞれの突帯上には凹線が刻まれる。上端部と前胴引き合わせ部には低い突帯状の縁取りがあり、胴前正面には左前胴と紐で連結する紐掛け孔がある。

木製短甲は富山県内唯一で、半身ながら形状を良く留めており、県内における弥生時代の甲冑研究に不可欠な資料である。また木製短甲、武器形木製品、土器は、祭祀具の一括資料であり、水辺における農耕祭祀の状況を解釈・理解する上でも貴重な資料といえる。

写真14　江尻遺跡出土品

第６表　江尻遺跡出土品一覧

No.	種類	器種	出土地点	法量（cm）			備考	報告番号
			遺構	口径（長さ）	器高（幅）	底径（厚さ）		
1	弥生土器	ミニチュア		－	－	3.4		121
2	弥生土器	蓋	SD801	6.6	3.0	（鈕）3.0	内外面赤彩	69
3	弥生土器	蓋	SD801	9.7	3.5	（鈕）2.6		71
4	弥生土器	台付鉢		11.9	6.6	3.4	外面スス	63
5	弥生土器	鉢	SD801	16.2	10.9	－	底部穿孔	73
6	弥生土器	台付鉢	SD801	12.7	10.0	5.1	底部穿孔　外面スス	62
7	弥生土器	高杯	SD801	17.1	14.2	10.6		53
8	弥生土器	高杯	SD801	19.5	14.8	9.2		54
9	弥生土器	壺		13.9	29.1	5.8	黒斑　外面スス	104
10	弥生土器	甕	SD801	15.1	－	－	黒斑　外面スス	34
11	弥生土器	甕	SD801	16.4	17.7	2.3	外面スス	13
12	弥生土器	小型甕	SD801	10.9	13.7	6.8	黒斑　外面スス	36
13	弥生土器	甕	SD801	10.7	16.6	6.0	外面スス	37
14	弥生土器	甕	SD801	14.9	21.5	2.3	外面スス	32
15	弥生土器	甕	SD801	16.8	(29.0)	1.9	外面スス	30
16	木製品	鏃形	SD801	(39.8)	1.9	1.6	スギ	198
17	木製品	刀形	SD801	33.5	2.9	0.7	スギ	193
18	木製品	刀形	SD801	46.0	2.6	0.7	スギ	191
19	木製品	刀形	SD801	(59.1)	5.1	0.9	スギ	190
20	木製品	短甲		(42.5)	(30.4)	1.8	カエデ　黒色漆	174

7　蔵野町東遺跡出土品（富山県高岡市蔵野町）

－弥生時代後～終末期：弥生土器76点（甕9点、壺17点、台付壺12点、高杯4点、器台8点、装飾器台4点、鉢9点、台付鉢1点、蓋5点、ミニチュア土器7点）、土製品2点（有孔土玉2点）、木製品5点（刀形2点、琴1点、舟形1点、鳥形1点）－

（1）出土品の概要

出土品は、自然流路SD101出土の弥生時代後期から古墳時代初頭の土器・木製品からなる祭祀具一括資料で、土器・土製品78点、木製品５点で構成される。

遺跡は富山県北西部の庄川と小矢部川に挟まれた佐野台地で標高は10～14mの解析谷肩部に立地する。

発掘調査は、北陸新幹線建設に伴い、平成21（2009）～22（2010）年に行われた。調査の結果、弥生時代後期から古墳時代初頭の自然流路・溝が確認された。自然流路は、堆積状況から大きく上・中・下層の三層に分けられるが、中層と下層については土器の時期区分が不明瞭となっている。このことから、出土遺物は、中・下層と上層の二層にしか区分できない。概ね中・下層は後期後半～終末期、上層は終末期～古墳時代初頭とされている。下層は、水流があり、完形に近い土器が流路底付近に堆積して出土した。中層は水流がやや落ち着いた環境で、流路肩部に土器が集中して意図的な配置・破損行為を思わせる状況が随所にみられた。このほか、中層には土器のほか、祭祀的性格をもつ木製品も多いが、土器集中地点とは異なる場所で廃棄されており、場所によって使い分けられていた可能性もある。上層は、流路が徐々に埋没し、テラス状に湿潤な窪地が広がる環境

第16図　蔵野町東遺跡位置図

写真15　蔵野町東遺跡全景

写真16　蔵野町東遺跡101号溝下・中層出土土器

写真17　蔵野町東遺跡101号溝上層出土土器

で、土器集中地点が散在する。土器集中地点毎に、土器の器種や大きさの組み合せには特徴が認められる。

(2) 出土品各説

①中・下層（第17・18、20図）　弥生土器・土製品51点、木製品５点で構成される。

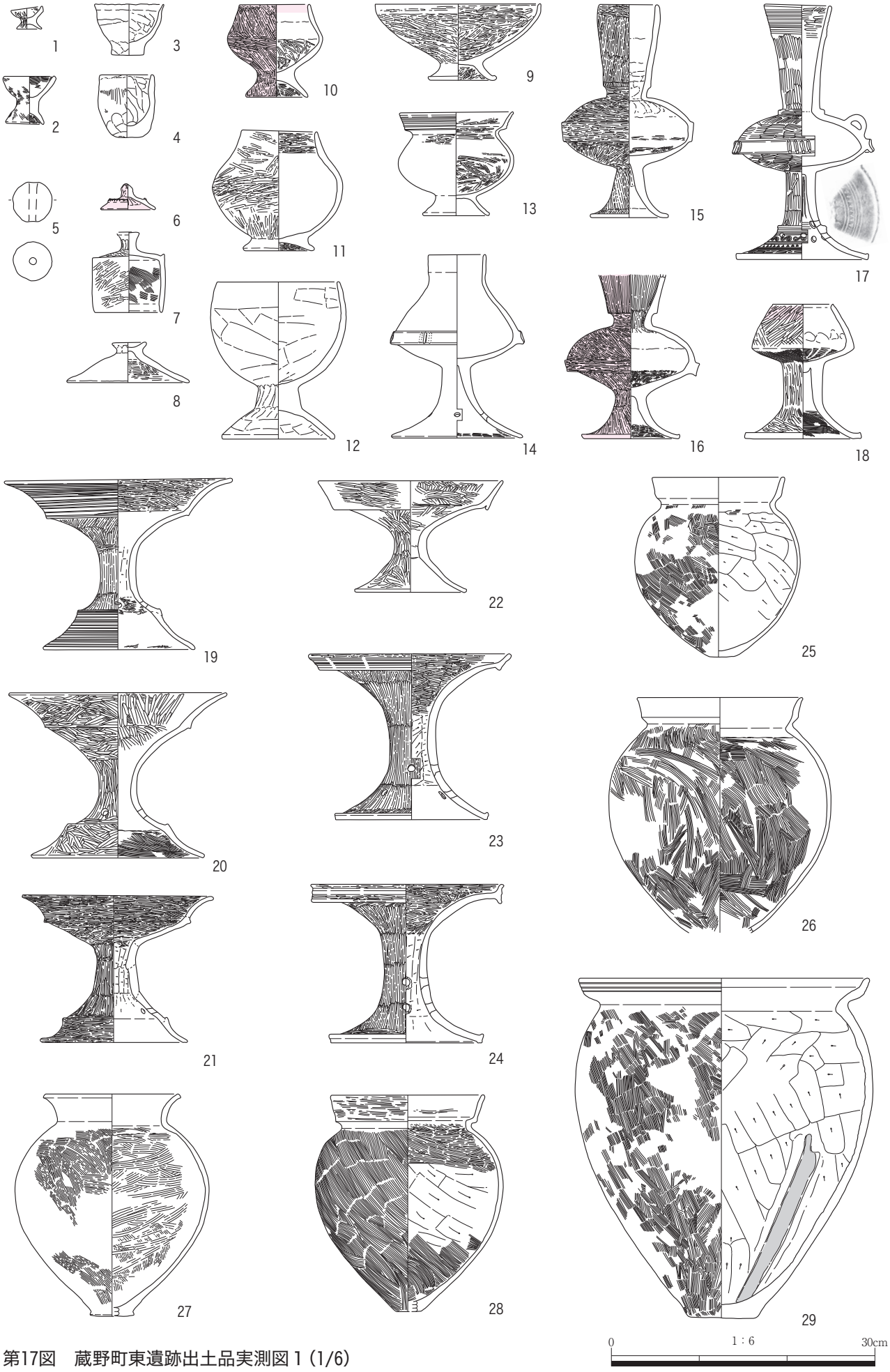
弥生土器は、ミニチュア土器、蓋、台付鉢、台付壺、器台、甕、鉢、有孔鉢、小型壺、壺、高杯がある。このなかには、ミニチュア土器（1～4)、台付装飾壺（14～17)、赤彩品やスタンプ文を施したもの等日常用のものではなく、祭式土器とも呼称されるものがある。ミニチュア土器には鉢形（3)、無頸壺形（4)、台付鉢形（1・2）がある。台付装飾壺は、体部中位には突帯が巡り、器台と壺が結合したものとされている。17は突帯上に棒状浮文の貼付のほか脚部の透かし､脚裾部のスタンプ文など装飾に富む。赤彩品には､蓋(6)･台付壺(10)･台付装飾壺（16)･鉢（33）がある。17のほかスタンプ文を施したものには小型壺（37)、高杯（41･42）がある。

土製品5は報告書では土錘とされていたが、鳥取県青谷上寺地遺跡、石川県八日市地方遺跡の類例から有孔土玉とした。青谷上寺地遺跡では孔にヒノキの細枝を通して輪状とし、樹皮を巻き付け緊縛したブレスレット状の状態での出土例があり、玉の形代とも考えられる。

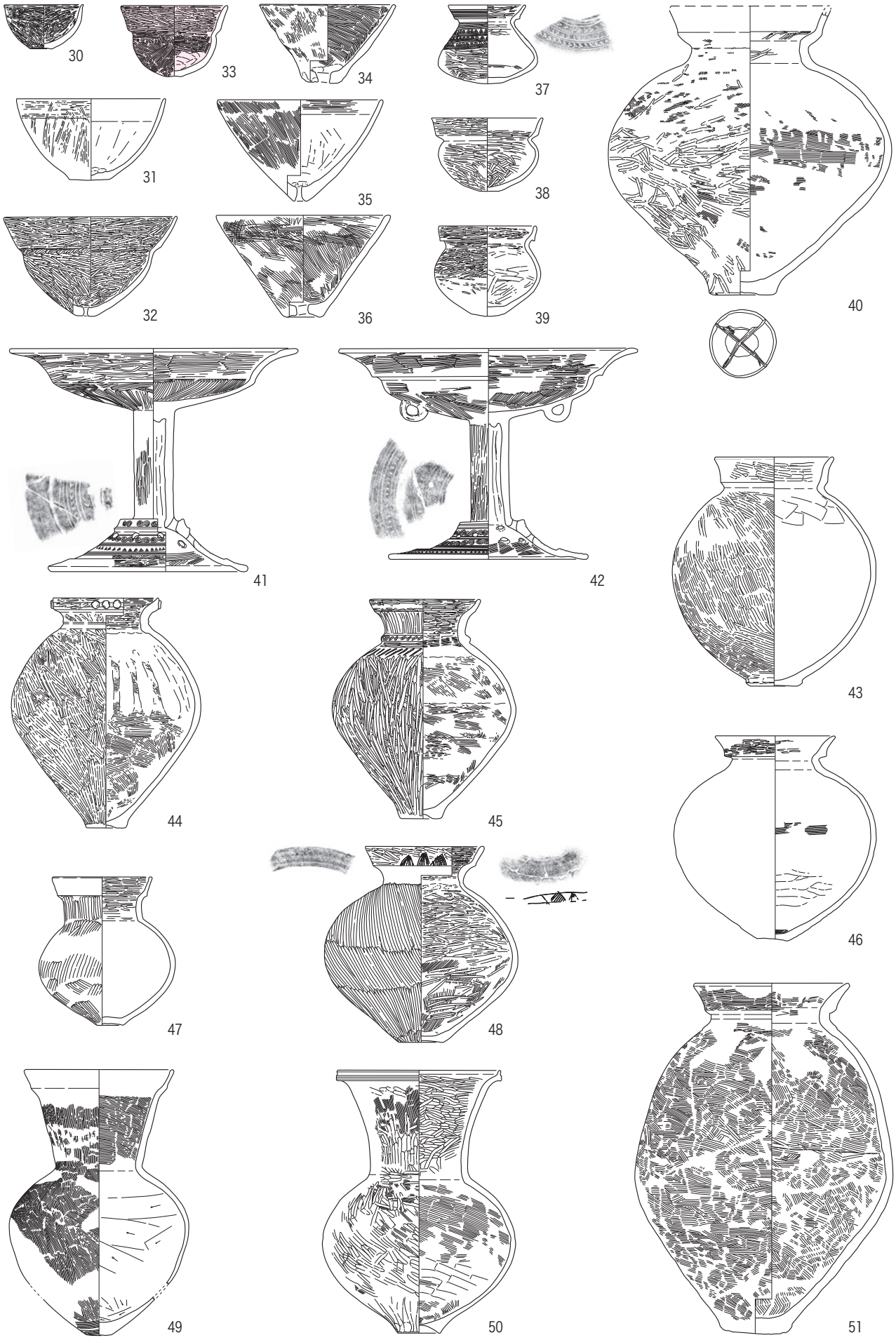
木製品には刀形（79・80)、琴（81)、舟形（82)、鳥形（83）の祭祀具がある。81は琴の天板。82は船首・船尾にあたる両端には貫通孔が穿たれる。

②上層（第19図）　弥生土器もしくは土師器（以下「土器」とする）26点、土製品1点で構成される。

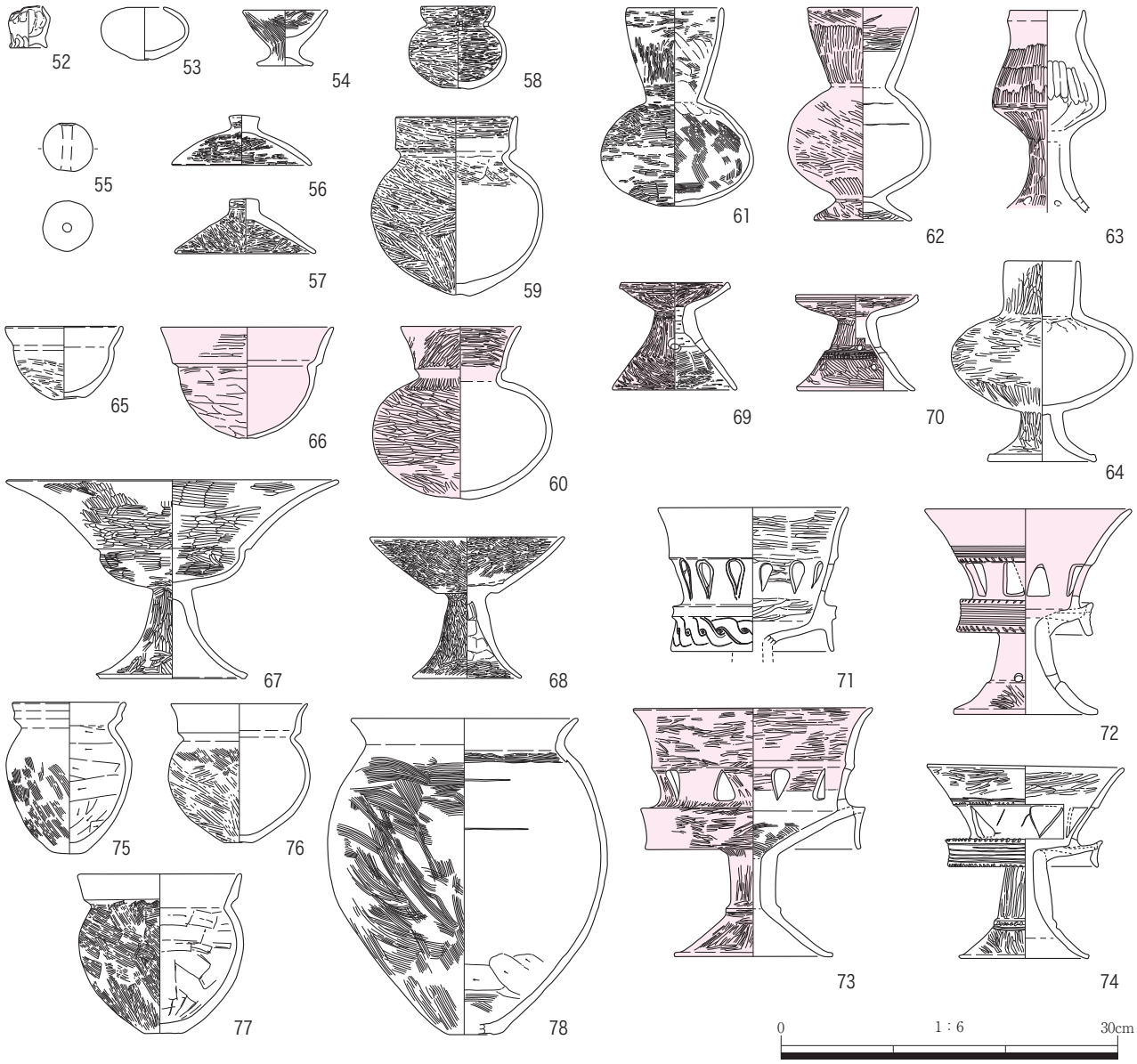
土器には、ミニチュア土器（52～54)、蓋（56・57)、小型壺（58～60)、壺（61)、台付壺（62～64)、鉢（65・66)、高杯（67・68)、小型器台（69・70)、装飾器台（71～74)、小型甕（75・76)、甕（78）がある。中・下層と比較すると新たに加わる器種があり、器種構成の変化が認められる。祭式土器でも、小型器台、装飾器台が新たに加わるものである。ミニチュア土器は台付壺形（52)、無頸壺形（53)、台付鉢形がある。台付壺には胴部中位の突帯がなく、脚が低くなっているもの（62・64)がある。小型器台は畿内系の外来系土器。70は脚に在地系の有段脚風の装飾があり折衷型である。装飾器台は受部に透孔がある北陸特有の器種。71は涙滴形透孔が逆位一方向に揃い、線刻で縁取られる。さらに受部の口縁部外面には上下２段の弧状の線刻が連続して施さ



第17図　蔵野町東遺跡出土品実測図１(1/6)



第18図　蔵野町東遺跡出土品実測図２(1/6)

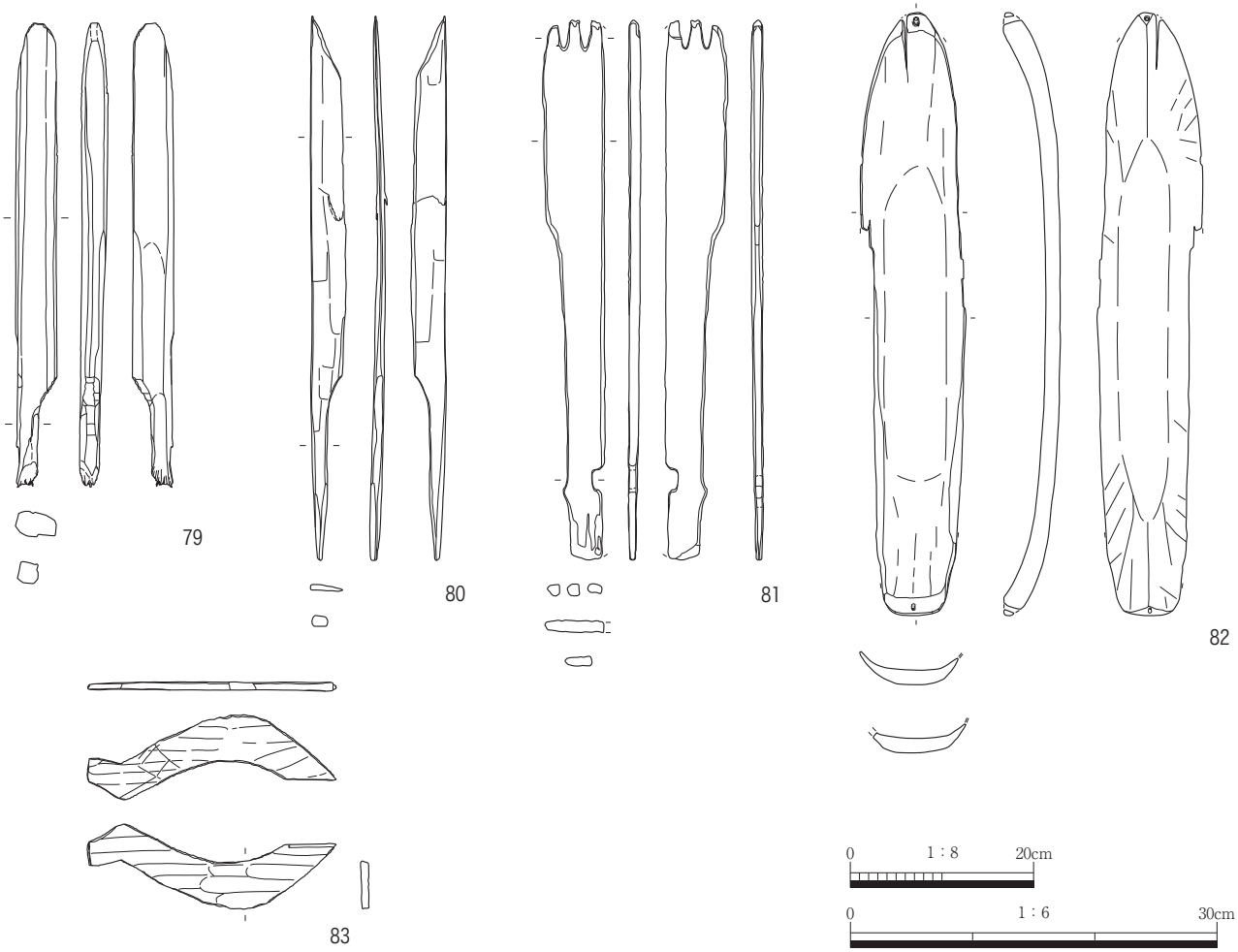


第19図　蔵野町東遺跡出土品実測図３(1/6)

れ、それぞれの下端と上端に囲まれた箇所には刺突文が施された華やかな意匠。72・74は受部に擬凹線、刻み目が施され、台形に近い涙滴形透孔が上下交互に穿たれる。73は涙滴形透孔が上下交互に10箇所に穿たれる。赤彩は、小型壺（60）、台付壺（62・63）、鉢（66）・小型器台（69・70）、装飾器台（72・73）に施される。

本件は、中・下層は木製祭祀具と祭式土器からなるもので、上層は新たに加わった祭式土器で祭祀具構成の変化が認められる。これらは、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての祭祀具の変遷を示すもので、水辺における農耕祭祀を研究する上で貴重な資料である。

写真18　蔵野町東遺跡101号溝上層出土品(木製品)



第20図　蔵野町東遺跡出土品実測図４(1/6、82のみ1/8)

参考文献

青山　晃 2013「富山県における弥生時代の墓制」『石川県埋蔵文化財情報』第29号　財団法人石川県埋蔵文化財センター
石川ゆずは 2004「惣領浦之前遺跡出土の木製品について」『富山考古学研究』７号　富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
芋本隆裕 1986「甲と楯」『弥生文化の研究　９弥生人の世界』雄山閣
橋本達也 1996「古墳時代前期甲冑の技術と系譜」『雪野山古墳の研究　考察編』雪野山古墳発掘調査団
　　1999「盾の系譜」『国家形成期の考古学―大阪大学考古学研究室10周年記念論集―』大阪大学考古学研究室
浜田晋介 2022『探求　弥生文化㊤　学説はどう変わってきたか』雄山閣
財団法人鳥取県教育文化財団　2001『青谷上寺地遺跡３』

第７表　蔵野町東遺跡出土品一覧

No.	種類	器種	法量（cm）			備考	報告番号
			口径	器高	底径		
1	弥生土器	ミニチュア	3.5	2.6	2.7	外面スス	727
2	弥生土器	ミニチュア	5.7	5.5	4.2	外面スス	726
3	弥生土器	ミニチュア	7.8	5.9	3.6	外面スス 外面に粘土接合痕残る	196
4	弥生土器	ミニチュア	5.6	7.2	2.4		195
5	土製品	土錘		径4.5			113
6	弥生土器	有紐蓋	6.0	3.0		内外赤彩　内面スス	721
7	弥生土器	有紐蓋	7.6	9.2		赤彩	723
8	弥生土器	有紐蓋	13.9	4.6	3.9	内面スス	192
9	弥生土器	台付鉢	19.0	8.7	7.1		525
10	弥生土器	台付壺	8.0	10.6	6.9	外面赤彩およびスス	73
11	弥生土器	台付壺	8.4	13.8	7.8	内面は剥落の為調整が不明瞭	74
12	弥生土器	台付壺	14.0	18.0	12.8		458
13	弥生土器	台付壺	12.8	11.9	7.4		456
14	弥生土器	台付壺	6.4	21.0	14.8	胴突帯に3本1組の棒状浮文貼付6箇所か？ 裾部に透孔4箇所	71
15	弥生土器	台付壺	6.6	24.5	8.4		452
16	弥生土器	台付壺			10.9	外面赤彩	161
17	弥生土器	台付壺	7.5	29.3	14.9	口縁擬凹線　胴突帯に4本1組の棒状浮文6箇所貼付 裾部にスタンプ文	160
18	弥生土器	台付壺	6.9	15.4	13.2	赤彩	72
19	弥生土器	器台	25.8	19.4	17.1	脚部に透孔4箇所	163
20	弥生土器	器台	24.8	18.9	19.5	脚部に透孔3箇所	165
21	弥生土器	器台	21.5	16.8	16.5	脚部に2個1組の透孔3箇所	164
22	弥生土器	器台	21.0	12.8	12.3		665
23	弥生土器	器台	22.9	19.0	17.4	脚部に透孔、上下段違いに６箇所	169
24	弥生土器	器台	21.9	18.2	17.3	上下2個1組の透孔が4箇所　胎土は蜜だが粒子大の礫が少量混入	168
25	弥生土器	甕	15.0	20.6	2.9	内外面スス	26
26	弥生土器	甕	18.8			外全面、内面下半にスス	123
27	弥生土器	甕	15.2	25.5	6.0	外全面、内面下半にスス	38
28	弥生土器	甕	17.4	24.8	2.8	外面（口・肩以下）、 内面底（下半）にスス	24
29	弥生土器	甕	33.0	39.0	7.5	外面　口、肩以下にスス 内面に粘土貼付け3箇所以上	559
30	弥生土器	鉢	9.0	5.0	2.6		99
31	弥生土器	鉢	16.8	9.3	4.7		188
32	弥生土器	有孔鉢	19.5	11.4	2.1	外面底部に黒斑	104
33	弥生土器	鉢	11.9	8.1	1.5	全面赤彩	97
34	弥生土器	有孔鉢	15.2	8.9	3.7	外面に黒斑	107
35	弥生土器	有孔鉢	18.6	11.5	1.4	口縁部は楕円形にゆがむ	105
36	弥生土器	有孔鉢	19.5	11.6	3.7		706
37	弥生土器	小型壺	8.7	8.9	2.5	外肩部にスタンプ文	442
38	弥生土器	小型壺	12.5	8.4	2.3		58
39	弥生土器	小型壺	11.0	10.3	3.8	赤彩、退色し範囲不明瞭 口縁内面～胴上半外面か？	59
40	弥生土器	壺	(18.0)	(32.9)	6.7	外面胴中位にスス　底部外面に線刻	254
41	弥生土器	高杯	33.0	32.0	22.0	裾部にスタンプ文と透孔、上段に4箇所と下段に8箇所	172
42	弥生土器	高杯	33.6	24.1	22.2	全体的に胎土密だがφ2mm～の礫が混入する 裾部にスタンプ文と透孔、上段に4箇所と下段に8箇所	171
43	弥生土器	壺	13.3	26.1	5.4		53
44	弥生土器	壺	11.8	26.3	4.5	外面下半にスス	141
45	弥生土器	壺	12.4	25.5	4.0		137
46	弥生土器	壺	13.4	23.4	3.4	赤彩　外面荒れ	639
47	弥生土器	壺	11.1	16.9	2.9	外面（肩部顕著）にスス	624
48	弥生土器	壺	13.3	22.3	5.0	外面下半にスス、口縁部・肩部に鋸歯文線刻	148
49	弥生土器	壺	16.7	30.3	2.9		47
50	弥生土器	壺	18.4	30.0	4.8	外面胴中位以下にスス 口縁に2条沈線	133
51	弥生土器	壺	17.1	40.0	7.1	内外面スス	158
52	弥生土器	ミニチュア			3.2		350
53	弥生土器	ミニチュア	3.3	4.8	1.4	外面スス　器面剥離	267
54	弥生土器	ミニチュア	7.4	5.0	4.7		349
55	土製品	土錘		径4.3		外面スス	352
56	弥生土器	有紐蓋	12.3	4.5		口縁内外面の一部にスス	341
57	弥生土器	有紐蓋	12.4	4.9			338
58	弥生土器	小型壺	6.5	7.3	2.1	頸部に一対の穿孔	264
59	弥生土器	小型壺	10.7	16.0	1.4	外面に黒斑とスス	261
60	弥生土器	小型壺	10.4	15.5		赤彩　外面胴下半にスス	260
61	弥生土器	壺	8.4	17.8	2.3		258
62	弥生土器	台付壺	9.6	19.2	8.5	赤彩	271
63	弥生土器	台付壺	6.6			赤彩　脚部に透孔6箇所	270
64	弥生土器	台付壺	6.2	18.0	9.5		658
65	弥生土器	鉢	10.4	6.5	2.8	外面に黒斑	320
66	弥生土器	鉢	15.4	10.0	1.6	赤彩	316
67	弥生土器	高杯	29.4	17.8	12.8		304
68	弥生土器	高杯	17.1	12.7	9.4		298
69	弥生土器	小型器台	9.6	9.6	10.8	脚部に円形透孔4箇所 杯部内面は剥落　赤彩	293
70	弥生土器	小型器台	10.9	8.6	10.3	赤彩　脚部中段に透孔4箇所、下段に透孔2箇所	670
71	弥生土器	装飾器台	16.8			涙滴形の透孔14箇所 線刻文・刺突文にて加飾	291
72	弥生土器	装飾器台	18.2	18.4	12.8	赤彩　涙滴形の透孔8箇所　脚部に透孔4箇所 擬凹線・刻目にて加飾	289
73	弥生土器	装飾器台	21.6	21.0	14.1	赤彩　透孔10箇所	476
74	弥生土器	装飾器台	17.6	17.4	11.4	涙滴形の透孔6箇所	290
75	弥生土器	小型甕	9.8	13.6	2.7		240
76	弥生土器	小型甕	12.2	12.5	2.4	底部外面に黒斑	236
77	弥生土器	小型甕	14.4	14.3	3.2	刷毛原体は細かく目が不揃い　外面に黒斑	235
78	弥生土器	甕	20.0	28.5	3.9	外面胴下半に粗砂を含んだ粘土が付着	228
79	木製品	刀形	39.3	3.5	2.2	スギ	802
80	木製品	刀形	45.0	2.9	0.9	スギ	803
81	木製品	琴	44.6	(5.1)	1.0	スギ	801
82	木製品	舟形容器	65.8	(11.5)	6.2	スギ	772
83	木製品	鳥形	20.5	7.0	0.7	スギ	798

注：法量の（　）内は残存長を示す。

富山県出土の重要考古資料 16

とやまの弥生時代墳墓・祭祀遺跡出土品

中小泉遺跡
囲山遺跡
南太閤山Ⅰ遺跡
惣領浦之前遺跡
江尻遺跡
蔵野町東遺跡

発　行　日　令和６年３月29日
編集・発行　富山県埋蔵文化財センター
〒930-0115　富山市茶屋町206番地3号
印　　刷　小間印刷株式会社

本書は、令和５年度文化庁地域の特色ある埋蔵文化財活用事業により作成した。